

桜島保育園の園児が桜島大根収穫

2月3日、桜島藤野町にある重久清隆さん(85歳)のほ場で園児と関係者14人が桜島大根を収穫しました。同保育園では、食農教育の一環として、十数年前から重久さんの指導を受けて、伝統野菜である桜島大根作りを学んでいます。

ほ場では、重久さんが「みんなが8月下旬に蒔いた桜島大根が大きくなったので、楽しく収穫してください」と話した後、園児らは掛け声をかけながら大きく生長した桜島大根を収穫しました。今回、収穫した桜島大根は、給食の食材として使われます。



第19回こどもたちが育てた桜島大根まつり開催

1月30日、鹿児島青果(株)のセリに市内5小学校(黒神・桜峰・桜洲・東桜島・春山)の児童が育てた桜島大根322本がセリに出品されました。

同まつりは、こどもたちが自ら育てた桜島大根を通じて、かごしまの食文化や伝統に触れてほしいと2002年からスタートし、「こどもたちの笑顔と元気を伝えようと、市内7校、県外2校の小中学校に食育活動の食材として提供しています。」

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、児童らの姿はありませんでしたが、多くの仲買人がメッセージの付いた桜島大根をセリ落としていました。



黒神小学校で桜島大根収穫

1月28日、黒神小学校で全校児童3人が桜島大根(200本)を収穫しました。

同校では毎年、生産農家の山崎正史さん(70歳)から伝統野菜である桜島大根作りを学びながら、世界一桜島大根コンテストや鹿児島青果(株)主催の「こどもたちが育てた桜島大根まつり」への出品、学校給食調理実習の食材としてフル活用しています。

ほ場では、山崎さんが収穫や藁を使った葉っぱの結び方を説明したあと、児童らは大きく生長した桜島大根を次々と収穫し「大きな桜島大根が多かったので嬉しい」と声を弾ませていました。



コモンヒルズはららでラディッシュ収穫

1月17日、原良支店管内にある積水ハウス(株)の分譲住宅地コモンヒルズはららの「はらら」農園で住民らがラディッシュの収穫を楽しみました。

11月のサツマイモを収穫したあとに積水ハウスのスタッフから「おしゃれなラディッシュと美味しいカブを作りたい」と相談があり、11月中旬に住民らが2種類「ラディッシュとカブ」の種まきを行いました。

畑では、大栄営農指導員から収穫方法の説明を受けたあと、子供たちは、ピンポン玉ぐらいに生長したラディッシュを収穫しました。

